

# より良い感染対策を探るための研究の実施について

## 1. 臨床研究について

当院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。その一つとして、当院では、九州大学が実施する「DPC・JANIS データを用いた抗菌薬使用状況と耐性菌発現状況の関連性評価」研究（研究代表者：福田治久）に参加しています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の審査と当院の倫理委員会の許可を受けています。

## 2. 研究の目的や意義について

抗菌薬であるメチシリンに対する薬剤耐性を獲得した黄色ブドウ球菌（MRSA）への感染は100人中0.36人に発生すると報告されており、病院感染は患者さんにとって大きな脅威となっています。

これら耐性菌感染の発生率は入院する病院によって異なっていることも明らかになっています。このバラツキは患者さんの重症度の違い、病院環境の違い、診療内容の違いなど様々な要因によって引き起こされていると考えられています。もし仮に各病院の患者さんの重症度が同程度であるにもかかわらず、抗菌薬の効き難い細菌（耐性菌）の割合が病院間で大きく異なっていることが明らかになったならば、耐性菌発生率の高い病院には改善の余地が大きくあることが示唆されます。その結果、感染対策の強化という対応策をとることができます。

当院において実施された治療内容（電子情報）を九州大学に送り、抗菌薬をどのように使用することで、耐性菌感染を防止することができるのかを統計学的に解析します。当院では、九州大学からフィードバックされる解析結果をもとに、より良い感染対策について探ります。

## 3. 研究の対象者について

平成27年4月1日から平成31年3月31日までに参加施設に入院された患者さんを対象に致します。本研究の参加施設数は100施設の予定です。

## 4. 研究の方法について

患者さんの感染症の発生状態に関する情報と、実際に行われた診療の情報を電子的に結合して、それらの因果関係を統計学的に調べます。入院期間中の患者さんの状態や医療のプロセスが感染症の発生にどのような影響を及ぼすかを考察します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

〔提供頂く情報〕

性別，年齢，入院年月日，退院年月日，退院時転帰，傷病名，入院時併存症，入院後発症疾患，手術名，手術日，身長，体重，喫煙指数，使用薬剤，薬剤使用量など

## 5. 個人情報の取扱いについて

研究対象者の診療プロセスや感染症発生状況に関するデータをこの研究に使用する際には、患者さんが特定できる情報を完全に削除して取り扱います。この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。この研究によって取得した情報は、研究責任者が厳重な管理を行います。

## 6. 情報の保管等について

この研究において得られた研究対象者の診療プロセスや感染症発生状況に関するデータは原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、研究責任者の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られた研究対象者の情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

## 7. 研究に関する情報や個人情報の開示について

この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

## 8. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究責任者:九州大学大学院医学研究院 医療経営学分野 准教授 福田治久

研究の解析:明治薬科大学 教授・赤沢学

業務委託先:有限会社電脳研究所

## 9. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、以下の担当者までご連絡ください。

公立学校共済組合 中国中央病院 医療安全管理室 高橋恵

【電話】084-970-2121 (代) (平日9時～17時)